

第3回群馬高齢者医療フォーラム

日 時：平成 17 年 11 月 30 日 (水)

場 所：マーキュリーホテル

代表世話人：森下 靖雄 (群馬大院・医・臓器病態外科学)

1. 高齢者の下部消化管手術における周術期管理

堤 莊一, 山口 悟, 深澤 孝晴
坪井香保里, 浅尾 高行, 桑野 博行

(群馬大院・医・病態総合外科学)

「はじめに」わが国の平均寿命は 2004 年の簡易生命表によると、女性が 85.59 歳で二十年連続の世界一、男性も 78.64 歳で二位であり、65 歳以上が総人口の 19.5% を占めている。高齢者社会となったわが国では、多くの慢性疾患を合併した患者が益々増加している。これらの症例は、明らかに術後感染症のリスクが高い。下部消化管手術は感染症の発生率が高く、感染症が発生すると、手術成績を左右するだけでなく、入院期間の延長、医療費の増大などの問題が生じる。一般にセフェム系薬が推奨されているが、耐性菌の誘導を考えると偏りがないように使用しなければならない。今回、リスクの高い高齢者の下部消化管手術においてスルバクタムナトリウム/アンピシリンナトリウム (SBT/ABPC) の有効性を評価した。「対象」2004 年 7 月から 2005 年 11 月までに当科において下部消化管手術を施行された患者 183 人を対象とした。「方法」SBT/ABPC 1.5g を執刀前、術後 6 時間以内に投与し、以後術後 3 日目まで 1 日 2 回投与した。症例を 75 歳以上の高齢者群と 75 歳未満の若年者群に分け、術前併存疾患の有無、手術時間、術後感染症の有無、入院日数について比較検討した。「結果」高齢者群は 43 人 (男性 30 人, 女性 13 人) で平均年齢 78.7 歳、若年者群では 138 人 (男性 86 人, 女性 52 人) で平均年齢 58.9 歳であった。併存疾患の割合は高齢者群で 53.5%、若年者群で 30.4% と高齢者群で有意に多かった。術後感染症を認めた症例は高齢者群 2 人 (4.8%)、若年者群 7 人 (5.1%) と差を認めなかった。MRSA を検出した症例はなかった。術後入院期間に関しても、高齢者群 13.3 日、若年者群 14.8 日と有意差を認めなかった。この結果は、対象期間以前の FMOX 投与症例と比較しても感染症の発生頻度に差は無く、入院期間は短縮されていた。「結語」下部消化管手術において SBT/ABPC の予防的投与は、ハイリスクの高齢者に対しても有効と思われた。抗生剤の選択に偏りがあると耐性化が問題となるため、セフェム系だ

けではなくペニシリン系も選択薬に加え使い分ける必要があると考えられる。

2. 高齢者の周手術期看護

堀越 政孝, 杉本 厚子, 前田三枝子

(群馬大医・附属病院・看護部)

【序 論】 2005 年 1 月から 10 月までに、群馬大学医学部附属病院・第一外科で全麻下手術を受けた患者は 619 件であった。75 歳以上に限定し算出したところ 70 件で、全体の約 11.3% に及ぶ。比較対象として 2000 年の全麻下の手術件数を挙げると 459 件、75 歳以上では 30 件で、全体の約 6.5% を占める。5 年間で 75 歳以上の手術患者は約 1.7 倍にもなっている。【対象事例】 今回事例として挙げる患者は、79 歳女性、臨床診断は「下咽頭癌・頸部食道癌・化学放射線療法後局所再発」であった。2004 年 12 月 1 月から 2005 年 1 月 20 日までに根治的に chemo と Radiation を行い、その後外来での follow となった。2ヶ月後に局所再発し同年 4 月 8 日に「下咽頭喉頭頸部食道切除遊離空腸再建」を受けた。【看護の要約】 ①術後コミュニケーション障害のリスク状態：術前から密な患者とのコミュニケーションをとった事で、ほぼ body action だけで「会話」することができた。結果、精神的な苦痛を与えずに済んだ。②手術侵襲による全身状態の変調に伴う低栄養状態：中心静脈栄養に加え、腸瘻からの経腸栄養と経口摂取開始時から NST 対応食とし、食事指導を行い栄養状態の改善を図った。③手術侵襲による非効果的気道浄化及び換気機能低下：術前術後に呼吸リハビリテーションを行った為、重篤な肺炎等を起こさずに回復に向かった。また徹底したマウスケアを実施し、唾液量低下による口腔内細菌繁殖予防をした。④コミュニケーション障害及び ADL 低下に関連したボディイメージの混乱：喉頭切除は、生来持っていた「声」を失うという身体一部の損失を意味する。事例の患者の場合、①の内容に加え、十分なムンテラと夫のサポートが強みになり、受容に至った。⑤退院後の社会資源の確保：患者会登録・身体障害者手帳交付などの社会資源確保をし、退院となった。【まとめ】 周手術期における高齢者の